

# 平成28(2016)年度 事業報告

社会福祉法人おおつ福祉会

## 1. 情勢報告

2016年7月の参議院選挙直前に実施されたテレビ朝日の世論調査では、参議院選挙で投票を判断するうえで、最も重視する政策は何ですかとの質問に対し、「年金・社会保障制度」と回答した人が30%で第一位であり、国民の願いは一貫して社会保障の充実を求めている。

障害福祉の分野では、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律が、4月に施行された。

7月26日には、津久井やまゆり園で19人の方々が元職員に命を奪われる事件が発生した。

これまでに国会議員も加わり生活保護受給者バッシングが行われるなど、社会の中に差別と分断・排除の思想が沈殿していることが事件の背景につながっている。

改めて、社会保障の充実で、誰もがいきいきと暮らせる社会を作ることが、国の最も大きな責務と位置付けることが必要である。

同じ月、厚労省に「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部が設置された。

身近な地域で求められるのは住民の互助の押しつけではなく、住民一人ひとりの暮らしにしっかりと責任を持つ福祉行政を基礎にしたネットワークである。

大津市では、養護学校卒業生の進路保障が引き続き課題となっている。7月には養護学校PTA・支える人の会・自立支援協議会の共催で、養護学校卒業後の進路保障を求めるシンポジウムが開催され要求の切実さが示された。生活介護、短期入所、グループホームなど必要とされる事業の基盤確保も課題であり、自治体の積極的な取り組みが求められているが、滋賀県・大津市とも財源不足を理由に各法人の主体性のみが強調された。

12月には障害者差別のない地域づくりを考えるシンポジウムも開催されたが、差別解消に向けた具体的な取り組みが地域で進んでいるとはいえない。

## 2. 法人の重点課題の概要

① 人材確保については、4回の採用試験を実施し、正規職員を10人(うち内部5人)年度途中も含め契約職員を6人採用した。福祉の職場フェア、試験毎の大学、専門学校への案内、若者応援企業宣言なども引き続き実施した。現場職員以外にも事務職員を採用した。しかし、平成29年度の必要人員数の確保には届かなかった。

② 新任・中堅研修については、職員のニーズに合わせた内容とし、後述のように計画的に進められた。

③ 学生実習を5事業所で、延べ24人以上受けとめた。社会福祉士の資格を1人、精神保健福祉士福祉士の資格を1人が取得した。

④ 3年越しのJKA補助要望が採択となり、山百合ホーム(仮)が実現することになった。

⑤ 国庫補助事業により、伊香立の杜ショートステイを増築し、2床の増床となった。

また、北部活動センターの移転先を確定し、国庫補助の要望を行った

⑥ 事業企画部において、第3期中期計画の策定作業を行った。

⑦ きょうされん国会請願署名9,223筆を国会に提出した。憲法25条を守る全国共同集会に参加した。

⑧ 未収金について、個々のケースの事情に応じた取り組みを、大津市等の関係機関と連携をとって進めた。

⑨ 芸術活動については、事業所合同での造形活動の取り組みを開始した。やよいやこだまでは、公募展やきょうされんグッズデザイン展に利用者作品が入賞した。

⑩ 社会福祉法改正に対応するため、定款や経理規定等の規程を改正した。評議員選任・解任委員会を開催し、新評議員が選出された。

### 3 組織的な課題等

施設長会議で持ち回りの学習会を年間を通して実施した。現場の議論をもとに、職員行動指針を作成した。

基本的な事項である決裁、予算執行、意思決定プロセスは守ることができた。

苦情委員会において、苦情として取り上げられたのは16件で、そのうち第3者委員に申し立てられたものはなかったが、直接滋賀県運営適正化委員会に申し立てられたのが1件あった。

研修活動として人権に関することを重点課題として取り組みをしていたにも関わらず、虐待事案が発生し、大津市から再度勧告を受けることとなった。現場での職員間のコミュニケーションと事業所の支援・管理体制の改善を求められた。

### 4 他の組織との連携

(1) きょうされん滋賀支部へ副理事長1人、常任理事として3人を派遣し、大津ブロックとしても副ブロック長を担った。滋賀支部として県との交渉及び大津ブロックとして大津市との交渉を行った。

(2) 大津市福祉施設協議会の事務局、OSKの副会長、滋賀セルフ協の副会長等の役割を担い、活動を支えた。

(3) おおつ福祉会後援会との連携を深めた。事務局を担い、運営委員に法人役員を派遣した。地域のまつり等のイベントの参加をすすめた。後援会から法人に3,000千円の寄附を頂いた。寄附金については、山百合ホーム(仮)の建設積立金とした。

(4) 家族会連合会と合同で、大津市に7項目の要望書をもとに10月に市長と面談を行った。

家族会連合会との懇談会を1回開催した。家族会連合会から法人に1,000千円の寄附を頂いた。寄附金については、山百合ホーム(仮)の建設積立金とした。

### 5 財政運営

(1) 資金収支計算書において、当期資金収支差額が12,559千円になった。

(2) 山百合ホーム(仮)のための建設積立金を積み立てた。

(3) 予算通り、修繕積立金を積み立てた。

(4) 老朽化した施設の移転のために移転積立金を積み立てた。

### 6 事業量

各事業の事業量は次のとおり

事業種別	事業所名 ( )内定員	事業量		
		H26年度実績	H27年度実績	H28年度実績
障害福祉サービス事業 (日中活動)	①唐崎やよい作業所(生活介護34人)	7,631人/年	7,792人/年	8,035人/年
	②社会就労センターこだま(就労継続B40人)	10,620人/年	9,440人/年	9,093人/年
	③社会就労センターあおぞら 生活介護30人 就労継続B10人	7,681人/年 1,560人/年	7,288人/年 1,648人/年	7,469人/年 1,489人/年
	④おおつ北部活動センター(就労継続B20人)	4,706人/年	4,642人/年	4,819人/年
	⑤おおぎの里 生活介護15人 就労継続15人	2,188人/年 4,005人/年	2,334人/年 3,251人/年	2,962人/年 2,641人/年
	⑥なんぶでいセンター(生活介護13人)	1,103人/年	1,100人/年	1,243人/年
	⑦「伊香立の杜」木輝 生活介護40人 生活訓練10人	8,205人/年 2,168人/年	8,401人/年 1,451人/年	9,974人/年 234人/年

グループホーム・ケアホーム	①南志賀ひまわりホーム(共同生活援助49人)	13,836人/年	14,280人/年	15,012人/年
	②伊香立の杜ケアホーム(共同生活援助30人)	9,660人/年	9,319人/年	9,689人/年
ショートステイ	①ショートステイむくの木(短期入所10人)	2,866人/年	2,924人/年	2,613人/年
	②伊香立の杜ショートステイ(短期入所10人)	3,577人/年	3,258人/年	3,289人/年
ホームヘルプ等	①おおつ福祉会ホームヘルプセンター	15,555時間	15,872時間	16,729時間
	②日中一時支援事業	1843回	1,617回	1,788回
相談支援事業	①相談支援事業所ひびき	2,168件	2,360件	3,525件
	②大津市発達障害者相談支援センターかほん	1,393件	1,898件	3,209件

## 7 理事会・評議員会の開催と出席状況、監査の状況

### (1) 理事会の開催日及び出席状況

開催年月日	場所	出席/理事総数	出席/監事総数
平成28年 5月25日(水)	社会就労センターこだま	8/10	2/2
6月5日(日)	滋賀市民センター	9/10	1/2
8月30日(火)	社会就労センターこだま	9/10	2/2
12月13日(火)	社会就労センターこだま	10/10	2/2
平成28年 3月21日(火)	社会就労センターこだま	10/10	1/2

### (2) 評議員会の開催日及び出席状況

開催年月日	場所	出席/評議員総数
平成28年 6月5日(日)	滋賀市民センター	14/21
8月27日(土)	社会就労センターこだま	18/21
12月10日(土)	社会就労センターこだま	17/21
平成29年 3月18日(土)	社会就労センターこだま	20/21

### (3) 監事による監査の実施状況

実施年月日	場所	担当した監事
平成28年 5月16日(月)	法人本部監査	和田監事

## 8 研究・研修部

### (1) 新任・中堅研修

①新任研修 2016年6月17日(金) 於：社会就労センターこだま  
「おおつ福祉会の成り立ちと滋賀の福祉とその歴史～おおつ福祉会の歩みに寄せて」  
評議員 岡山 喜久治氏

②新任・中堅研修 2016年6月18日(土) 於：光荘

i) 午前

「安全運転講習」 東京海上日動京都支店 藤本 玲氏  
「大木を支える職員集団」 社会福祉法人ハスの実の家 相談支援専門員 田中 洋行氏  
元理事 渡邊 登美子氏

ii) 午後 グループワーク

新任 「福祉キャリアの新しい一歩」 社会福祉法人グロー 山田 宗寛氏  
中堅 「実践での失敗談～あるある体験談～」

- (2) 研究集会 2017年3月4日(土) 於: 県人権センター光荘  
記念講演「ともに生活しながらともに『よりよく生きる』」  
講師: 仏教大学 准教授 井上 洋平氏

分科会①療育①  
分科会②「療育②」  
分科会③「就労」  
分科会④「高齢・居住」

(3) 新任フォローアップ研修

- ① 2016年12月6日(水) 於: 唐崎やよい作業所  
グループワーク 「10年後の私を見つめて」
- ② 「自閉症についての学習」 於: 「伊香立の杜」 木輝  
○ 「自閉症の‘そもそも’なハナシ」  
理解編 2017年1月19日(木)  
支援編 2016年2月16日(木)  
○ 「自閉症支援員のいろいろなハナシ」  
いろいろな手法と、その使い方 2017年1月27日(金)  
わかりやすく、気持ちよく自立的に動ける」 2017年2月24日(金)  
社会福祉法人 しが夢翔会 小崎 太陽氏

(4) 中堅研修

- 於: 唐崎やよい作業所
- ① 「発達について 基礎編」 2016年11月16日(水)  
② 「発達について 応用編」 2016年12月14日(水)  
滋賀大学 教授 白石 恵理子氏
- ③ 「人権研修」 於: 唐崎やよい作業所  
グループワーク (経験10年以上) 2016年12月21日  
2017年 1月18日

- (5) 午前 救急・救命講習会 於: 唐崎やよい作業所・「伊香立の杜」 木輝  
午後 人権研修 於: 各事業所

## 9 会議報告

(1) 事業企画部 開催回数 12回

- ① ゆうやけホーム 運営及び、今年度の方向性の検討→主任者会議に委譲  
② 北部活動センターの移転に伴う活動の方向性の確認  
③ 第3期中期計画(案) 素案づくり

(2) 作業会議(就労会議) 全体会議2回・担当会議2回

28年度は、優先調達の情報共有、就労者による座談会と授産パンフレットの作成を目的とした。座談会は、日程の調整ができなかったこともあり、実施にいたらなかった。優先調達や下請けの情報などは、個別に発信することで共有していった。パンフレットの作成は、専門家にネット配信など見積もりを出してもらったが、実施するにはいたらなかった。

(3) 居宅会議 6回開催

年間を通して職員行動指針について、最終的に日中事業所案とすり合わせるために居宅事業所案として数回に渡って議論を進めてきた。また、熊本地震や津久井やまゆり園での事件を受けて各事業所で緊急時に対応できるように防犯対策、災害マニュアルの作成および更新について進められる

よう議論を進めてきた。24時間365日利用者の生活を守るための緊急時マニュアルについてはまだ議論を積み重ねていく必要があるので、次年度への課題としていきたい。

#### (4) 給食会議 5回開催

調理等の評価、異物混入の事故報告と対応策、嗜好調査の作成と結果の報告、ノロウイルス対策の再確認、28年度の行事食と献立の評価などの内容を話し合った。

#### (5) 広報会議 16回開催

2016年度はReach45号・46号・47号を発行した。

4月に発行した45号では各施設の旅行記、第30回こだままつり、新任職員の1年間を振り返った記事を掲載。8月に発行した46号では新任職員の紹介、国会請願行動レポート、交流会の様子などを紹介、2015年度決算報告、2016年度事業計画などを載せた。また、47号では第31回こだままつり、きょうされん熊本大会レポート、熊本震災ボランティアの様子などを掲載した。

その他にも、「この人にクローズアップ」と題し毎号利用者2人ずつ、日頃の活動ぶりや生活の楽しみなどを紹介した。

#### (6) 高齢会議 5回開催

年度はじめに、高齢障害者の方の事例について、利用者の住まいや生活の状況によって大きく5つに分類し、各事業所から1事例ずつ検討した。情勢学習の後、各事業所より事例を提案、高齢障害者の支援について検討した。各事業所担当職員の他、人間発達研究所、生涯発達プロジェクト担当の吉留英雄氏の参加を得て助言をしていただいた。

#### (7) 美術会議 6回開催（うち1回は外部見学）

各事業所の造形作品の不足により5年間継続していた法人合同作品展の開催は見送ったが、担当者6人で外部施設（やまなみ工房）へ造形活動の見学実施や複数の事業所合同で造形活動を3回実施するなど今後の活動について模索した。また、各事業所それぞれにing展やピカッとアート展、きょうされんカレンダーコンクール、滋賀県勤労者美術展に出展し数点が入選したり、滋賀銀行での展示や京都新聞に作品掲載されるなどの動きがあった。

## 10 各事業所の報告

### (1) 唐崎やよい作業所

#### 1. 利用実績（定員34人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	21	20	23	21	21	21	21	21	21	20	21	23	254
契約者数（人）	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	456
利用者延出勤数（人）	669	631	728	639	654	663	676	669	647	612	681	766	8035
対定員利用率（%）	93.8	92.9	93.2	89.7	91.8	92.9	94.7	93.8	90.9	90.0	95.6	98.2	93.2

伊香立の杜「木輝」から移行した1人と新たに契約し、契約者は38人となった。長期欠席者2人には、行事の際に誘いかけをおこなったり、定期的におたよりを届けた。その結果、1人は行事の際や行事以外の日にも数回、本人のペースで通所できた。もう1人は一度も通所できなかった。

#### 2. 重点課題に対する取り組み

(2) これまで専門家の助言を受けて活動内容を検討してきた、音楽リズム・レクリエーション・室内スポーツ活動は、提示方法や道具を随時工夫することで、利用者にとってより見通しの持ちやすい活動となった。昨年度から取り入れた誕生日会・合同造形・カラオケ&リフレッシュ・小運動

会等の年間行事は、昨年度とほぼ同じ時期・頻度でおこない、昨年度好評だったものを取り入れることで、利用者にとってより見通しの持ちやすい、期待の持てる活動となった。

- (3) 予定していた、床（廊下、トイレ前、1階食堂、2階活動室）、壁（2階活動室、相談室）、網戸（1階食堂、2階地域交流室）の修繕をおこなった。
- (4) 新たに契約を結んだ1人を含む2人について発達検査と検討会議をおこない、今後の支援について助言を受けた。また、各自の研修計画に基づき、1人を除く常勤職員12人が外部研修を1回以上受講した。
- (5) やよい通信を9月と3月に近隣地域へ配布し、その中で缶・古紙回収についても案内をおこなった。定期的な缶・古紙回収には、近隣の商店に協力を得た。不定期な缶・古紙回収には、市内の学校数校に協力を得た。物品販売の他、署名、こだままつりの広告・協力金について、近隣の企業、商店、学校、医院へ働きかけをおこない、多くの協力を得ることができた。また、近隣のスーパーの協力を得て街頭署名を1回おこなった。利用者の取り組みである「地域活動」で、不定期ではあるが、近隣地域の清掃作業（ゴミや枯葉拾い）をおこなった。年間通して、大学の「介護体験実習生」を8人受け入れ、こだままつりのボランティア参加や、作業所のアルバイト勤務につなげることができた。

### 3. 苦情・事故等

苦情4件

## (2) 社会就労センターこだま

### 1. 利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	21	20	23	23	23	22	23	22	21	20	21	23	262
契約者数（人）	50	50	48	48	48	48	49	49	48	48	48	48	
利用者出勤日数（日）	772	739	809	766	705	732	751	758	750	735	735	841	9093
対定員利用率（%）	91.9	92.3	87.9	83.2	76.6	83.1	81.6	86.1	89.2	91.8	87.5	91.4	86.7

契約者50人でスタートしたが、残念ながら病気で2人の方が亡くなられた。また一人の方が就労され、一人契約し48人となった。

### 2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 就労移行支援事業を実施予定であったが、利用者の高齢化や体力低下によるこだまの方向性の見直しが必要になり中止した。
- (2) ジョブコーチを利用し、施設外支援を経た後、立命館大学の「立命館ぷらす」に一人就労した。就労後も定期的に作業所と連携を持ち、関係団体とも協力して支援している。
- (3) 長期欠席の方の定期訪問を実施し、各団体とも連携しながら支援をすすめたが、通所には至らなかった。
- (4) 専門家による利用者の発達検査およびケース検討会を実施した。（年5回）
- (5) におの浜スポーツセンターでフェルト教室を開催した。便利屋の作業において、ゴミ処理などの規制が厳しくなり、地域からのニーズに応えることが厳しくなった。
- (6) ゆったりと取り組める作業として、室内作業でお菓子の外箱の紙の貼り付けの作業を取り入れた。
- (7) 一泊研修旅行は金沢方面に行き、スクラムの会主催行事や、クラブ活動、外部の講師を招いて防災について学習をした。

### 3. 家族・地域・他団体との連携について

ぜひこだまワッショイまつりを開催、地域のまつりや文化祭への参加をした。またクラブ活動では外部講師や定期的なボランティアに来ていただき、外部発表会に参加することが

できた。整体師の方によるストレッチ教室を実施した。またきょうされんの利用者部会や署名活動、全国大会等に参加することができた。

#### 4. 苦情・事故等

苦情 3件、事故は3件（内車両事故3件）

### (3) 社会就労センターあおぞら

#### 1. 利用実績

##### 生活介護(定員30人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	21	20	23	21	21	22	21	20	18	18	20	22	247
契約者数(人)	34	34	34	34	34	34	35	35	35	35	35	35	414
利用者延出勤数(人)	629	604	696	624	599	641	656	614	560	532	625	689	7469
対定員利用率(%)	99.8	100.7	100.9	99.0	95.1	97.1	104.1	102.3	103.7	98.5	104.2	104.4	100.8

##### 就労継続B型(定員10人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	21	20	23	21	21	22	21	20	18	18	20	22	247
契約者数(人)	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6	77
利用者延出勤数(人)	143	130	154	137	125	121	121	114	104	95	116	129	1489
対定員利用率(%)	68.1	65.0	67.0	65.2	59.5	55.0	57.6	57.0	57.8	52.8	58.0	58.6	60.3

#### 2. 重点課題に関する取り組み

- (1) 新規利用者1人を受け入れた。また9月に就労継続支援B型契約者1人が一旦退所となったが10月に生活支援で契約をし直すこととなり、年度末の契約者数は生活介護35人・就労継続支援B型6人となった。強度行動障害サポートセンターややまびこ総合支援センターなど関係機関と連携を取りながら、利用者により良い支援を行うようつとめた。
- (2) 生活介護の活動を授産活動と療育活動の二つの柱で組み立てなおした。その中でもリサイクル活動の缶・古紙回収に関してはなかなか作業が追い付かず未だ検討中。散歩の活動に関しては、利用者構成を見直し利用者に適した運動量を確保するようつとめた。
- (3) 陶芸・手織り・美術活動で制作した作品を、多くの人に見てもらうために、ing展などに出品展示した。
- (4) 6月4日にあおぞらこまつりを行い地域との交流を行った。地域の大学生ボランティアも参加し地域への広がりを感じられたまつりとなった。
- (5) 職員の研修に関しては、外部より講師を招き、一つの具体的なケースを参照しながら障害の基礎的な学習会を行った。この学習会には新任職員からパートまで多くの人が出席した。今後もシリーズ化して展開していく予定。  
また、虐待事案を受けて、再発防止のための学習会、職員間での話し合いを続けた。

#### 3. 苦情・事故等

苦情0件、事故0件

### (4) おおつ北部活動センター

#### 1. 利用実績 (定員20人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	22	21	22	22	22	22	22	21	22	21	20	23	260
契約者数(人)	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240



利用者出勤日数(日)	408	391	406	412	401	413	414	385	410	380	375	424	4819
対定員利用率(%)	92.2	93.1	92.2	98.1	91.1	93.9	94.1	91.7	93.2	92.7	93.8	92.2	92.7

契約者数については、年間通して定員割れすることなく20人だった。

## 2. 重点課題に対する取り組みについて

- (1) 年額平均工賃16万円については、目標を達成することができなかった。  
一人平均15.9万円(交通費補助含む)。下請け作業(箱折り=福見印刷、名倉紙工)が全体の70%以上を占めた。
- (2) 一般就労を目指す取り組みは、今年度はこだまに実習と県障害者職業センター適性検査とセミナー利用がそれぞれ1人あった。障害者就職面接会の参加は希望者がなかった。
- (3) 利用者が主体となる取り組みとして、利用者自治会運営の支援をおこなった。一泊旅行(大阪・和歌山方面)の実施や、おつかれ様会(甲賀忍術村)の企画。きょうされん全国大会にむけて千羽鶴プロジェクトを起こし大会参加者に千羽鶴を届けてもらった。また、学習会の企画として「性と生について」講師を招いて異性ととの上手な付き合い方など学んだ。
- (4) 職員の研修として年間研修計画を元に研修をおこなった。
- (5) 事業所の新規移転場所については、立命館大学蓬莱セミナーの建物購入と土地借用することが決まった。

## 3. 家族・地域・他団体との連携について

今年度は、次の住まいの場への展望として「体験ホーム」利用にむけて家族や本人に説明し勧めてきた。結果的に6人と契約することができた。一人暮らしに向けて関係者で会議を開催した。

地域では、毎年恒例の「大津市子育て総合支援センター ゆめっこ」と連携を図り、就学前の子どもを持つ家族とふれあい体験(さつまいも苗植え5月・収穫10月)を行うことが出来た。(今年で8回目)

署名活動では、虹ヶ丘、高城地区に戸別訪問をおこなった。また、がんばるディでは、他事業所と協力して、堅田駅前にて3回街頭署名活動をおこなった。

## 4. 苦情・事故等

苦情0件、事故0件

## (5) 障害者福祉サービス事業所おおぎの里

### 1. 利用実績

#### (1) 生活介護(定員15人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	21	20	23	21	21	21	21	21	21	20	21	23	254
契約者数(人)	17	17	17	17	16	16	16	16	16	16	16	16	196
利用者出勤日数(日)	271	256	291	271	235	242	247	247	220	222	231	229	2,962
対定員利用率(%)	86.0	85.3	84.4	86.0	74.6	76.8	78.4	78.4	69.8	74.0	73.3	66.4	77.7

#### (2) 就労継続支援B型(定員15人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	21	20	23	21	21	21	21	21	21	20	21	23	254
契約者数(人)	14	15	15	14	13	13	13	13	13	13	13	14	163
利用者出勤日数(日)	288	212	244	217	199	201	212	217	213	191	223	224	2,641
対定員利用率(%)	91.4	70.7	70.7	68.9	63.2	63.8	67.3	68.9	67.6	63.7	70.8	64.9	69.3

平成28年度は、就労継続支援B型に精神障害の方3人と知的障害の方1人を受け入れた。この内、1人が退所。生活介護は、養護学校の卒業生(知的障害の方)1人を受け入れた。

## 2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 精神障害の方の受け入れについて、年度内に6人の実習を行い、3人の方と契約することができた。利用については、本人や関係機関と連携しながら利用日のペースを調整し、利用の安定化を図った。しかし、安定して利用ができていないケースもあり今後も継続して検討を必要とする。
- (2) 就労継続支援B型の作業種と作業量を増やす目的で箱折り作業やATM（自動預払機）の清掃、におの浜スポーツセンターのメンテナンス作業を取り入れ、作業内容を充実させることができた。ガラス作業は、新しい商品化には結びつけられなかった。
- (3) 生活介護は、利用者それぞれのニーズに合わせる目的で2グループに分けて週案作りを行った。これにより取り組みの幅ができ、積極的に参加できる活動を増やすことができた。
- (4) 職員の研修について精神保健関連の外部研修への参加を職員全員に広げられなかったが、精神障害者支援センター（オアシスの郷）と連携し、ケース会議やモニタリングを通じて学習した。

## 3. 家族・地域・他団体との連携について

昨年度に引き続き、住まいの場への展望として「ゆうやけホーム（体験ホーム）」の利用について計画的に実施することができた。

地域との交流を図るため「仰木の里フェスタ」に実行委員として参加した。

## 4. 苦情・事故等

苦情 1件、事故 8件（内車両事故3件）

## (6) なんぶでいセンター

### 1. 利用実績（定員13人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数(日)	20	19	22	20	19	20	20	20	19	18	20	22	239
契約者数(人)	8	8	8	8	8	8	8	8	8	9	9	9	99
利用者出勤日数(日)	97	94	113	102	100	102	111	106	94	95	110	119	1243
対定員利用率(%)	37.3%	38.1%	39.5%	39.2%	40.5%	39.2%	42.7%	40.8%	38.1%	40.6%	42.3%	41.6%	40.0%

年度当初に新たに1人と契約し、契約者数8人でスタートした。年度途中で更に1人と契約し、合計9人となったが、1人の利用者は継続して通所することが難しく、年度後半はほとんど通所されなかった。

### 2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 移転する物件については、むくの木と一緒に1箇所の見学を行ったが、条件があわず、移転には至らなかった。
- (2) 高齢障害者の活動の場として、今年度は社会就労センターこだまより1人の利用者の実習を行い、契約に結びついた。午前の活動は、体操、ストレッチを行うとともに、午前中できるかぎり散歩に出かけた。また、毎朝検温と血圧測定を行い、毎月末には体重測定を行った。午後の作業は刺し子の作業を主な活動とし、水曜日はレクリエーション、金曜日は看護師による足湯、健康の話聞く時間とした。
- (3) 職員の研修は、きょうされんの研究集会、人間発達研究所の生涯発達プロジェクト等に参加した。

### 3. 家族・地域・他団体との連携

地域の自治会に加入。きょうされんの国会請願署名の依頼、こだままつりの広告および協賛金の

依頼などで地域をまわり、協力をお願いした。

#### 4. 苦情・事故について

苦情 0 件、事故総数 0 件（うち、車輛事故 0 件）

### (7) 「伊香立の杜」木輝

#### 1. 利用実績

##### 生活介護(定員40人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	21	20	23	21	21	21	21	21	21	20	21	23	254
契約者数(人)	42	42	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	494
利用者延出勤数(人)	858	786	924	848	807	785	827	836	829	773	780	921	9974
対定員利用率(%)	102.1	98.3	100.4	101.0	96.1	93.5	98.5	99.5	98.7	96.6	92.9	100.1	98.2

##### 生活訓練(定員10人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	21	20	23	21	21	21	21	21	21	20	21	23	254
契約者数(人)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
利用者延出勤数(人)	19	19	22	21	16	19	20	20	19	18	19	22	234
対定員利用率(%)	9.0	9.5	9.6	10.0	7.6	9.0	9.5	9.5	9.0	9.0	9.0	9.6	9.2

#### 2. 重点課題に対する取り組み

生活介護事業で新規利用者2人を受け入れた。

本人の課題に応じて生活訓練の利用者1人を地域の事業所に移行した。

ソファの買い替えに関しては利用者のこだわりなどを考慮し見送った。また、施設の修繕に関しては、傷みの激しかった1Fウッドデッキを全て撤去した。

地域との交流に関しては、7月16日に納涼祭を行った。また、守人の会の活動による餅つき大会を12月17日に行った。両事業とも地域住民が多数来所し盛況に終わった。

#### 3. 苦情・事故

苦情 1 件、事故 1 件

### (8) 伊香立の杜ケアホーム

#### 1. 利用実績(定員30人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利用実績	803	785	820	843	798	803	825	821	827	788	730	846	9689
平均利用人数	26.8	25.3	27.3	27.2	25.7	26.8	26.6	27.4	26.7	25.4	26.1	27.3	26.6

#### 2. 重点課題に対する取り組み

新規利用者1人を受け入れた。1人の移行を目指していたが実現までにはいかなかった。

2016年度より各棟に担当職員を配置した。それにより家族とのやりとりがより適切に行われた。

古くなったPC3台を新調した。家具類の買い替えは見送った。また、行動障害からくる破損に対し、ガラスをポリカーボネートに交換するなど強化策を実施し対応した。施設整備に関しては国庫補助を受けて防犯カメラとセンサーライトの設置を行った。

クリスマスや正月など季節に応じた行事食を提供した。

12月15日に伊香立の杜ショートステイと合同で避難訓練を実施した。

7月16日に納涼祭を行い地域との交流を深めた。また、地域のお祭りにも参加するなど生活の中で地域とのかかわりを大切にした。

### 3. 苦情・事故

苦情0件、事故1件

## (9) 伊香立の杜ショートステイ

### 1. 利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計・平均
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
実利用者数	77	70	77	78	75	74	82	78	77	77	73	79	76.4
延べ利用者数(人)	294	265	282	251	282	272	286	258	269	275	262	293	3,289
平均利用者数	9.8	8.6	9.4	8.1	9.1	9.1	9.3	8.6	8.7	8.9	9.4	9.5	9.1人/日
利用率(%)	98.0	86.0	94.0	81.0	91.0	91.0	93.0	86.0	87.0	89.0	94.0	95.0	91.0

### 2. 重点課題に対する取り組み

(1)職員体制を維持させることにより、昨年度を若干上回る利用率となった。

また、緊急時の対応についても、短期・中期にかかわらず、ほぼ要請に応えることが出来た。

(2)課題の大きい利用者の方については、関係機関との情報共有をしつつ受け止めをしてきたが、環境等の課題は残った。

長期に利用している利用者の次の移行先については見通しが持てないまま繰り越しとなったままである。

(3)伊香立の杜ケアホームと合同の避難訓練の実施した。

(4)季節のイベントや行事食については例年通りに実施できた。

### 3. 家族、地域、他団体との連携

(1)伊香立の納涼祭については、今年度初めての日中の時間帯に実施をした。天候は快晴に恵まれたが、暑さ対策がとれていなかったこと等の課題を残した。

(2)地域向けの通信は定期的に発行できた。

### 4. 苦情・事故について

苦情0件・事故0件

## (10) グループホーム

### 1. 利用実績(全11ホーム、定員49人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利用実績	1188	1235	1225	1266	1254	1226	1271	1361	1288	1296	1162	1240	15012
平均人数	39.6	39.8	40.8	40.8	40.5	40.9	41	45.4	41.5	41.8	41.5	40	41.1
利用率(%)	80.8%	81.2%	83.3%	83.3%	82.7%	83.5%	83.7%	92.7%	84.7%	85.3%	84.7%	81.6%	83.9%

\* ゆうやけホームの実績は除く

今年度は2人の退居、3人の入居があった。退去の2人は自立生活支援ホームにて自立を目指している方で、それぞれ2年の期限を経て一人暮らしと他法人のグループホームへ移行した。入居のうち2人はグループホームへの入居、1人は自立生活支援ホームを年度末に体験実習を実施し、そのまま入居となった。

また、昨年度から体験型ホームとして開所している「ゆうやけホーム」の今年度の延べ利用者

数は307人、開所日数は85日間であった。

## 2. 重点課題に対する取り組みの状況

(1) 今年度新たにグループホームへ2人の入居があり、自立生活支援ホームを除くグループホームは定員を満たした。

自立生活支援ホームについては今年度2人が退居した。このうち1人の空きは年度末に新たに受け入れた。あと2人分ある空きについては年度明けに入居予定となっている。

(2) 財産管理について、利用者預り金規定については継続して事務職員を配置することで徹底した管理を図ることができた。成年後見人や大津市社会福祉協議会の権利擁護事業への引継については2人の利用者を成年後見人制度利用につなげることができた。また1人も現在、成年後見人制度利用の手続き中となっている。

(3) 常勤職員による月2回の職員会議、各ホーム単位のキーパー会議をおよそ月1回、および全体キーパー会議を年3回開催した。

(4) 65歳以上の利用者が8人となり、介護保険との併用ケースが年々増えてきている。併用ケースにおいては介護保険のケアマネージャーと連携して生活を支えている。また疾病により今後医療機関との連携が必要となる可能性があるケースもあり、多くのホームで体温及び血圧測定、体重測定などが引き続き必要となっている。

(5) 自立生活支援ホームは一人暮らしへの移行という有期限の生活の中、自立生活に向けてその都度、細かい目標設定を利用者と相談したり、ケース会議を定期的に重ねたりすることで支援を積み重ねてきた。一方で児童福祉から障害福祉へのつなぎ目のスムーズな移行支援の難しさが課題となっている。

(6) 余暇活動について、ホーム行事は年12回開催することができた。内容は食事会、映画鑑賞会、外出等。

(7) 自動火災通報装置など必要な消防設備の順次設置を進めた。

(8) ホーム主催の救命講習に職員・キーパー数人が参加した。消防訓練はむくの木と合同で栗津ホームのみ実施した。自立支援協議会主催の研修会やきょうされん滋賀支部地域生活支援部会主催キーパー学習会、サービス管理責任者研修会等に職員・キーパーで参加した。年3回開催した全体キーパー会議では大津市虐待防止センターを講師に招き、学習会を2回実施した。

## 3. 地域との関わり

地域の自治会に継続して加入した。一部のホームでびわこ一斉清掃や地域の清掃活動に利用者と一緒に参加した。一部のホームで自治会に出席した。

## 4. 苦情・事故等

苦情 1 件、事故 5 件（うち車両事故 0 件）

### (11) ショートステイむくの木

#### 1. 利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計/平均
開所日数	30	31	29	31	31	30	31	29	28	28	27	28	353
実利用者数	97	94	97	97	95	95	92	89	92	88	86	97	93.3
延べ利用者数(人)	231	226	239	241	229	227	236	214	184	194	184	208	2613
平均利用人数	7.7	7.3	8.3	7.8	7.4	7.6	7.7	7.4	6.6	6.9	6.9	7.5	7.5/日
利用率(%)	77.0	73.0	83.0	78.0	74.0	76.0	77.0	74.0	66.0	70.0	69.0	75.0	75.0

契約者数385人（平成29年3月末現在）

1年の平均利用人数は7.5人で目標数値にはわずかに到達しなかった。6月に緊急利用が2件

続き、8月には家族の入院により1か月を超える利用があった。他、毎月15日前後利用されていた3人が次々とGHへ移行されたことによる利用数の減と、12月にキーパーが2人減ったことで支援体制が十分に取れず受け入れ人数を減らしたり閉所日を設けたりしたことが重なり後半は利用率の低下が続いた。新規契約者は29人（うち市外の方3人）。

## 2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 関係機関とは緊急利用やケース会議、新規利用など随時情報交換を行い連携して支援に取り組んだ。
- (2) 年度初めに建物の契約更新をしたが接地道路の不備による大津市からの改善指導もあり年間を通して移転先捜しも行った。しかし、資金面や立地条件等の理由により進展なく大きな課題として次年度に持越しとなった。修繕については古くなったリビングや脱衣所の照明、IHクッキングヒーターの交換など実施した。
- (3) 職員研修は法人内研修については全員参加できたが、法人外研修は体制不足により一部の職員しか参加できなかった。他、南消防署員立ち合いの自主防災訓練を年度末に実施した。

## 3. 地域との関わり

地域の自治会に継続して加入し総会に出席、地域版むくの木通信を回覧版でまわした。

## 4. 苦情・事故等

苦情0件 事故1件（うち車両事故1件）

## (12) おおつ福祉会ホームヘルプセンター・ロコ・きたくぶ(日中一時支援事業)

### 1. 利用実績

ホームヘルプ実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	集計
依頼件数	702	698	736	734	691	720	753	732	712	699	678	754	8609件
実施件数	578	618	644	623	597	641	676	614	604	621	602	655	7473件
お断り	78	29	46	58	37	41	44	78	52	38	35	59	595件
キャンセル	46	51	46	53	57	38	33	40	56	40	41	40	541件
利用人数	161	158	158	165	154	157	173	162	154	155	153	160	1910人
支援時間	1,323	1,425	1,355	1,467	1,458	1,434	1,506	1,387	1,391	1,307	1,288	1,389	16,729 h

1か月の平均では、依頼件数717件・実施件数623件・断り件数50件・キャンセル件数45件・利用人数159人・利用時間数1394時間となった。

依頼件数に対して断らなければならなかった割合は、昨年度12%であったのに対して今年度6.9%で、5ポイントほどお断り率を減らすことができた。

利用者数は年間の延べ人数はあまり変わらなかったが、利用時間数は昨年度より約850時間増加しており、ニーズにお応えすることができた。

日中一時実績

きたくぶ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	25	23	25	25	23	24	25	24	23	23	23	27	290日
利用人数	101	86	112	104	85	95	95	99	99	113	104	111	1204人
利用登録者数	16人												

ロコ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	22	21	21	21	18	21	21	20	19	20	19	23	246日
利用人数	50	49	53	52	39	50	55	47	46	44	50	49	584人

前年度より、ロコでは利用登録者数が1人減ったが、きたくぶのみ月曜日を開所したことで、年間利用人数は171人増え、1,788人となった。

## 2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 年間の利用時間の目標が19,700時間であったのに対して、実績は16,729時間であった。身体介護の時間は目標が11,300時間であったのに対して、実績は10,137時間、移動支援の時間は目標が8,400時間であったのに対して、実績は6,590時間となった  
今年度は、常勤職員がマイナス1スタートになったことに加え、職員1人が介護休暇、傷病休暇などにより、約半年程出勤ができなかったが、登録ヘルパーの支援時間は約9,700時間(毎月稼働人数は約20人)と、全体の支援時間の約57%となっており、前年度よりも約1,200時間程度増加している
- (2) 日中一時支援の年間事業量の目標を2,646人としていたが、実績は1,788人であった。1日あたりの平均は6.6人、1か月あたりの平均は149人となった。
- (3) 車両3台を整備(日本財団より助成を受け1台、河本文教福祉振興会より1台寄贈、1台購入)し、2台廃車した。
- (4) 年間53回・25人のケース会議に出席、それぞれのケースで関係機関と緊密にやりとりをし、できるだけ本人理解を深めた上で支援にあたるよう心がけた。また、自立支援協議会主催の『ヘルプ事業所協議会』『放課後等支援部会』『北部ネットワーク協議会』などに職員が参加し、地域の課題の認識を深めた。

## 3. 苦情・事故等

ヘルプ： 苦情3件・事故2件(内、車両事故2件)

日中一時支援： 苦情0件・事故0件

### (13) 相談支援事業所ひびき

#### 1. 利用実績

利用者人数 291人 知的障害(重複障害含む)288人精神障害3人

年間相談件数 トータル 3,525件(児童:432件 成人:3093件)

<計画相談について>

○計画相談件数 269件 モニタリング回数 325回

・大津市全体の課題として検討されているが、相談支援専門員の人員不足は依然解消されていない。年度当初は相談支援専門員は4人だったが、実働は2人。計画相談のモニタリング・更新に大半の時間をとられ、一般相談において柔軟で丁寧な動きが難しい状態は昨年度と変わらない。

<ケースを通して見えてきたもの>

○家族全体への支援…ひとり親世帯や、両親・家族の高齢化、家庭内暴力・虐待など、家庭基盤の弱い中で生活されている方への支援が目立っている。家族が高齢や病気で介助やサービス調整ができなくなったり、暴力・虐待で同居が難しくなったりするケースがあり、24時間・家族全体の生活を見守る、チームでの支援が必要なケースが増えている。

○住まいの課題について…大津市全体で住まいの場(グループホーム、入所施設など)を希望している待機者は100人を超えている。グループホームの新設が難しい中で今現在も

なんとか自宅での生活を繋いでいる人も多く、今後も住まいの場の確保は大きな課題。ゆうやけホームの体験利用で、本人の生活アセスメントや家族の心構えはできてきたが、次の生活に進めようとしても資源がないため動き出せない。

○在宅から事業所利用へ…福祉サービスの利用がなかったり途切れたりしていて、在宅生活を続け

ていた人のケース数。家族以外の支援者との繋がりが全くなく、相談支援で関わりながら、福祉サービス利用を拡げていき、ヘルプ利用やホーム入居、事業所の利用開始につながった。家族の高齢化の課題と共に、計画相談の利用の中で、埋もれていたニーズ掘り起こしが出来ているとも言える。

○財産管理・金銭管理について…お金の管理について、後見人に繋いだり、社協の金銭管理に依頼するケースが増えている。

## 2. 苦情・事故等

苦情 2 件・事故 0 件

### (14)大津市発達障害者相談支援センターかほん

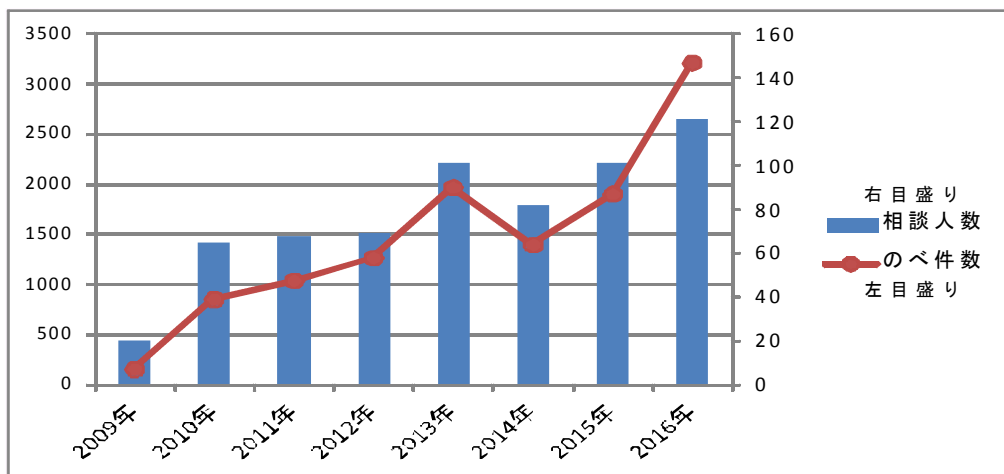
#### 1. 利用実績

##### (1) 2016年度障害別延べ支援件数

合計	児童	成人	発達障害	知的障害	精神障害	その他
3,209	356	2,853	1,291	38	63	1,817

「その他」診断を受ける前、手帳申請の前の人の特に丁寧な対応が必要なケースの相談件数が多いことが特徴的。発達障害の診断があり、2次的に精神症状がある人の相談も多い。

##### (2) かほん開所後の相談件数の推移



2014年度は職員の休職・退職が相次ぎ、相談体制が不安定だった。2015年1月以降、相談員3人体制で継続。2016年度は、1年間の延べ支援件数では過去最高。

#### 2. 重点課題に対する取り組みの状況

☆ 平成29(2017)年度末をもっておおつ福祉会が大津市からの発達障害相談事業の業務委託を返上する方向を表明し、大津市自立支援協議会で大津市の発達障害相談事業の再編のための協議を始めた。平成29年度のみ相談体制について、しが夢翔会が窓口となり、特性に応じて各機関に割り振り、おおつ福祉会のかほんは、18歳以上の高機能発達障害を対象とすることが再確認された。

(1) 相談から福祉サービスにつながったケースは、生活訓練事業2人、就労移行事業1人。それぞれアフターフォローをしている。福祉サービス事業所だけでなく、若者サポートステーション、働き暮らし応援センター、ハローワーク等との連携ケースは増えている。

しかし、まだ相談者の特性にあった事業所は少ないのが現状。

(2) 利用者交流会は昨年に引き続きバーベキューを1回実施した。4人参加。家族向けとしての学習会は実施せず、下記の市民向けの学習会に参加を促した。

(3) 当事者、家族の声を直接聞く学習会を実施した。参加者30人。

(4) 広報を3回発行した。

(5) 法人内の事業所からの相談は7件、延べ17回。



### 3. 苦情・事故等

苦情 1 件、事故 1 件